



神戸オックスフォード 日本学プログラム シンポジウム・記念コンサート

2013年10月15日(火)
瀧川記念学術交流会館

午後2時半～ オープニング

開会挨拶・来賓挨拶・日本学プログラム第2期生紹介

午後3時～ シンポジウム

「記憶・沈黙・ジェンダー：新たな日本研究の構築に向けて」

講演：水田宗子（学校法人城西大学理事長）

指定討論：濱田麻矢／奥村沙矢香（神戸大学准教授）

午後5時～ 記念コンサート《ジョン・ダウランドの世界》

Emma Kirkby（ソプラノ）／つのだたかし（リュート）

主催：神戸大学人文学研究科

プロフィール

シンポジウム講演：水田 宗子 みずた のりこ

東京女子大学文理学部英米文学科卒業後、米国イェール大学大学院においてAmerican Studiesを専攻し博士号を取得。1970年より、米国メリー・マウント大学、スクリップス大学において現代英米文学、批評理論などを担当した後、1974年より米国南カリフォルニア大学比較文学部助教授としてアメリカ文学、比較文学、日本文学、フェミニズム批評理論などを幅広く講義した。

1992年より城西国際大学人文学部教授。1994年から1996年まで、城西大学学長。1996年から2009年まで城西国際大学学長、2004年に学校法人城西大学理事長となり現在に至る。日本におけるフェミニズム批評研究の第一人者であり、日本女性学会の創設に尽力した。

研究分野：アメリカ文学、比較女性文学、ジェンダー文化論、現代詩、文学批評
著書：

- 『Reality and Fiction in Modern Japanese Literature』1980年 M.E.Sharpe
『エドガー・アラン・ポオの世界－罪と夢』1982年6月 南雲堂
『ヒロインからヒーローへ－女性の自我と表現』1982年12月 田畑書店
『フェミニズムの彼方－女性表現の深層－』1991年4月 講談社
『二十世紀の女性表現－ジェンダー文化の外部へ』2003年11月 學藝書林
『女性学との出会い』2004年5月 集英社
『尾崎翠－第七官界彷徨の世界』2005年3月 新典社
『モダニズムと〈戦後女性詩〉の展開』2012年1月 思潮社
『大庭みな子 記憶の文学』2013年5月 平凡社
など多数。

記念コンサート《ジョン・ダウランドの世界》

演奏曲目：流れよ わが涙/暗闇に私はすみたい 他

イギリス音楽史に輝く作曲家・リュート奏者、ジョン・ダウランド(1563-1626)。オックスフォード大学で学位を取得、ヨーロッパを遍歴し、そのリュート音楽・歌曲は広く愛された。今年は生誕450年にあたる。

エマ・カークビー (ソプラノ)

自分は色々な意味で幸運だったとエマ・カークビーは思っている。まだ大学でクラシックを専攻していた学生時代にルネサンスのポリフォニー音楽に出会ったこと、オックスフォードのスコラ・カントルムというすばらしい合唱団と歌えたこと、そして何よりも、スタートの時点からリュートやチェンバロ、ヒストリカルな管楽器、弦楽器など、ルネサンス・バロックの作曲家が聴いていた楽器に出会えたこと。それらの楽器の響きと人間の身の丈にあったスケールが彼女の天性の素質を引き出した。



歌の志をもちながら学校の教師をしていたが、じきに先駆的な活動をしていた声楽アンサンブルでプロフェッショナルに演奏するように誘われた。そしてイギリスをはじめとする世界各国のアンサンブル、演奏家、レコード会社との長きにわたる協力関係が始まったのだ。今やエマの声と

演奏スタイルは世界中でよく知られるところとなった。さまざまな名誉の受章があるが、最近では2007年に大英帝国からデイムの称号を受け、2011年にはエリザベス女王から音楽メダルを贈られた。これに驚きながらも、アンサンブルと清澄さ、静けさを重んじる音楽の作り方が認められたことを彼女は喜んでいる。そしてエマ・カークビーが何よりも楽しんでいるのは、自らの能力を努力することに傾ける新しい世代の歌手たち、演奏家たちに出会うことである。

つのだたかし (リュート)

ドイツ国立ケルン音楽大学リュート科を卒業。リュート等の古典撥弦楽器のソリストとして国内外で演奏活動を行う。また歌曲の伴奏者として歌手から厚い信頼を受け、ロベルト・マメリ、エヴリン・タブ、エマ・カークビー、ルーファス・ミュラー、クラウディオ・カヴィーナ、故三宅春恵、波多野睦美、中鉢聡、牧野正人ら、内外の多くの名歌手の伴奏を務める。《タブラトゥーラ》、《アンサンブル・エクレジア》主宰。モンテヴェルディのオペラ、シェイクスピアの舞台、フランス中世の歌物語など舞台作品や映画の音楽も手がける。2004年からHakuju Hallで古楽ルネサンスシリーズを企画。